



竜北中図書館通信



令和2年6月（文責：本田）

☆梅雨の季節になりました “かさ”

およそ1500年前、朝鮮半島から絹ばりの大型傘（絹傘）とよばれる傘が伝わったといわれています。平安時代には、和紙を使った和傘が作られましたが、日傘としても使われており、閉じることができないものでした。

日本に洋傘が入ってきたのは、開国後アメリカなどとの交易がはじまった江戸時代の終わりごろからです。コウモリのような形から『こうもり傘』とよばれるようになりました。軽くて使いやすいことや、おしゃれでハイカラなことから広まりました。

この梅雨の時期、お気に入りの傘があれば、傘一つで気持ちまで明るくなったりしますよね。 参照：日本はじめて図鑑（監修：田中裕二）ポプラ社



☆図書委員会の紹介

～よろしくお願いします～

委員長：（3-2）高野 優奈	副委員長：（2-1）森田 龍ノ介
委員：（1-1）緒方 稜士	委員：（1-1）竹田 亜樹
委員：（1-1）西村 望那	
委員：（1-2）有田 悠	委員：（1-2）上田 未来
委員：（2-1）東 大翔	委員：（2-1）日和田 蓮
委員：（2-2）岩村 美沙希	委員：（2-2）日和田 一龍
委員：（2-2）福岡 奈那美	
委員：（3-1）稲崎 真衣	委員：（3-1）錦戸 蓮太
委員：（3-1）松川 竜之介	
委員：（3-2）陳野 翔太	委員：（3-2）田嶋 心



☆高校受験に勝つ45の習慣より『清水式・高校受験に勝つ45の習慣 清水章弘・著（PHP研究所）』

～すきま時間にやることを決めておこう～

学校で「これから10分間、自習をしてください」と言われたり、電車やバスなどの待ち時間ができたりしたら、あなたは何をしていますか。たとえば、

★英単語や漢字を覚える ★ノートを見返す など、たとえ10分でもできることはたくさんあります。このような細切れの時間を無駄にしないためには、あらかじめ、すきま時間にやることを決めておき、それに使う材料をいつでも用意しておくことが大切です。（一部抜粋）



よかったら、読んでみてね



『トイレで読む、
トイレのための
トイレ小説』
ひうげっ
電月 あさみ 著
(KADOKAWA)

誰もが使うトイレの様々なお話があります。昔話や怖い話、殺人事件?!の話もあります。

長い話と短い話がありますので、その時の自分に合わせて読んでみて下さい。

きっとすばらしいトイレライフを過ごすことができるでしょう。そして作者は世界中にきれいなトイレと安全な水が増えるように願っています。



『日本の名作
鼻・羅生門』
芥川 龍之介 作
(ポプラ社)

『羅生門』の舞台は、平安時代の京都です。その頃、京都の街は疫病や天災が相次いでいました。ある日、羅生門の下で職を失った男が雨やどりをしていました。明日からの生活はどうしようかと悩んでいるところに、あやしい1人の老婆に目が止まります。何が正義で何が悪なのか... 生きるための人間のエゴが描かれています。



『「なるほど」とわかる
マンガ
見ための心理学』
ゆうき ゆう 監修
(西東社)

心理学者のエクマンらは、人には6つの基本的感情があり、その表情は人類共通だと述べています。

言葉を介さずとも、また見知らぬ相手であっても、その時の表情が大きな手がかりとなります。

まずは『見た目』を気にすることにより、相手の信頼を得ると、物事がスムーズになると思えますよ。



『つくってあそぼう
梅干しの
絵本』
こしみずまさみ 編
(農文協)

梅干しは日本に古くから伝わる加工食品で、昔は薬のかわりとして使われていました。

赤じそを入れるか入れないかで、まず白梅干しと赤梅干しになります。また大きさや完熟度も違います。

梅肉を使った加工品もいろいろと工夫されていますので、料理に一味生かしますね。